



# 広報 えびっ

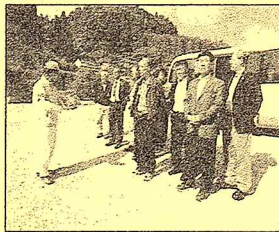
発行  
海老津校区コミュニティ  
編集 総務・広報部

総務・広報部  
稲留・谷口・安田  
松下・丹本  
石田・石兼

発行：岡垣町海老津校区コミュニティ運営協議会 編集：総務・広報部  
岡垣町海老津駅前10番16号地域交流センター内 TEL：093-282-5767 FAX：282-5772

## 九州北部豪雨災害における 住民の避難行動について

平成30年11月1日に安全安心部会主催で朝倉市杷木町の「松末地域コミュニティ協議会」へ視察研修に行きました。参加者は、16名でした。協議会の伊藤睦人会長から被災地の様子をお聞きしました。



伊藤睦人会長の説明

### 松末地域の概要

朝倉市の東部に位置しており、11の集落でNGO世帯あり、人口は1,000人、高齢化率が39%です。山にはイノシシやシカ、川にはアブラメ、蜆がいる山間地域です。平成29年7月から未だ、生活再建の目途はたっていません。

### 豪雨災害対策

松末地区は、平成24年7月にも豪雨災害に遭っています。その時は、山腹崩壊、護岸流失、道路寸断、田畑流失、土砂堆積による集落の孤立等ありましたが、人的被害はありませんでした。

- ① 防災マップの作成
- ② 自主防災計画書を作成し、指揮体制や要支援とその支援者の確認。
- ③ Jアラートを利用した連絡体制の確認。
- ④ 避難訓練、応急処置等の実施。
- ⑤ 訓練を日常生活の中に取り入れ、応急担架リレーや炊き出しの実施。

### 想像を超えた豪雨災害に遭遇

平成27年7月5日の豪雨災害では、猛烈な雨の為、河川の水が橋を越して、道路にあふれ出たり、真つ黒な濁流で道路が通れなかったり、田の畔から水があふれ出したりしました。住居にも濁流が流れ込み、納屋や住居が流されました。巨岩や山の木も流されていました。Jアラートは、機能せず。聞こえず、住民は個人の判断で避難しました。自主防災計画は、地域全体が被災したために全く機能しませんでした。事前の避難者はわずか、多くの人が自宅の屋根裏・2階に留まったり、裏山に避難したり、隣や知人宅に避難したりしました。

いもよらなかつたので、避難が遅れたのではないかという事でした。松末地区では、19名が死亡、安否未確認が1名という人的被害が出ました。松末地区は、中山間地における日本で初めて最大の災害地となりました。

### 復旧・復興に向けて

- ★問題点
- ① 住民が分散化して避難してしまつた。
- ② 避難所運営は、市の職員が入れ代わり立ち代わりで行つた為、避難者と意思の疎通ができにくかつた。
- ③ 市からのみなし仮設住宅・仮設住宅・自力避難住宅に関する提供情報の遅れがあり、補償を受けられなかつた人もいた。
- ④ 土地の改良復旧に對して、国や県、市の機関が複雑に関わってくる為、

それらをコーディネートする人がおらず困まつた。☆良かった点

松末地域コミュニティ協議会が復興に向けての住民主催の説明会・学習会を開催し、行政との話し合いを始めました。その内容は、「松末復興かわら版」の発行で広報していただきます。(ネットに掲載)

現在、松末地域での居住者は、40%を割り込み、1,400名となっています。

### 防災減災についての意識を変えよう

- \* 広範な災害では、自主防災組織は機能しない。
- \* 緊急時、行政には頼れないので、自助・共助が必要。
- \* 危険が予想されたら、まず率先避難。空振りも良かつたことである。
- \* 家庭内で行先、避難先の確認をする。



### 山口校区コミュニティ運営協議会

☆平成30年11月26日に5校区コミュニティ合同で筑紫野市の「山口コミュニティ運営協議会」の視察研修に行きました。参加者は、役員職員3名も含めて、26名でした。

筑紫野市の人口は103,800人(平成30年10月末)です。

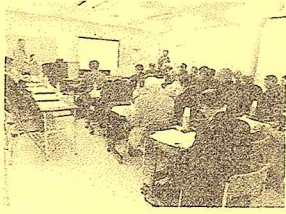
7つの小学校区にコミュニティ組織があり、その中の一つが「山口コミュニティ運営協議会」です。

市は、交付金による財政支援や人的支援を行っています。

コミュニティが取り組む地域活動は、

①防犯及び防災

②環境美化及び保全



資料も十分に丁寧な説明に感謝

③福祉の向上

④青少年健全育成、人材育成及び教育となつていきます。

コミュニティセンターが設置されて活動の中心になっていきます。

行政区が6つあり、2,578世帯で人口が5,500人です。

各区の高齢化率は、26〜40%で超高齢になつていきます。

【主な収入】

①市の交付金 370万円

②市の地域スポーツ推進補助金33万円

③6行政区負担金 22万円

④社会福祉協議会助成金 9万円

\*前年度繰越金を含めると、合計は、470万円

【部会の種類】

- ・自然歴史部会
- ・安全安心部会
- ・子ども部会

- ・元気部会
- ・地域ふれあい部会
- ・スポーツ振興部会
- ・広報委員会

【事業】月に3〜5回程行っていて、100名以上の参加がある事業は、次の通り。

- ・やまぐち歌謡祭
- ・夏休み子どもキャンプ

- ・市民体育祭(山口校区大会)
- ・認知症「笑顔で声かけ」訓練in山口
- ・山口コミュニティまつり

- ・ふれあいクリスマスコンサート
- ・山口コミュニティもちつき広場

【主な支出】

・全事業費は120万円くらいです。

・役員手当や費用弁償、事務費等の総務費合計は、270万円くらいです。

【役員】

☆役員は、自治区の区長も兼任しているので、大変だと思われました。

### 地域での助け合いについて学ぶ



すすめの家代表(中央) 吉田 日出子さん

☆平成31年1月25日に岡垣町社会福祉協議会主催で、大分県中津市の沖代寄り合い所「すすめの家」へ行きました。

参加者は、岡垣町から21名でした。

平成5年から開始された「すすめの家」は、部屋が3つある小さな家です。

私達が訪問した時は、たくさんの方が椅子に座って、楽しそうに歌を唄っていました。

その中に、男性が一人いましたが、他は女性ばかりでした。

《すすめの家》

・誰でも参加できる地域サロンです。毎週火・金の10時〜15時に開かれています。特別なメニューはありませんが、おしゃべりしたり、歌を唄ったり、その他の手作業をしたりしています。会費は、1回200円(食事代)です。

また、午後のコーヒーを飲まれる方はプラス100円です。

更に、吉田さんは、この他にも、住民型有償サービスを平成7年からしています。

《どんぐりサービス》

・お年寄りや障がい者、そして子どものことなど、日常生活上ちょっと手伝って欲しい時、同じ地域の仲間として、ボランティアの気持ちで活動します。

【サービ内容】

- ・食事の支度・洗濯・掃除・買い物・通院や外出時の付添・話し相手等です。

【利用会員】

・会員制で、日常生活上、家事援助などを必要とする人で、次のいずれかに該当する方です。

- ①重度心身障害児者、及びその家族
- ②介護が必要な高齢者及びその家族(介護保険を使っても足りない方)
- ③介護保険を使えない高齢者
- ④その他

【サービス時間】

・9時〜17時(時間外は相談に応じる)

【利用者負担金】

・年会費 1,000円

・サービス時間 1時間 700円

研修を終えての感想(広報部)

・自分の住んでいる自治区内や校区内等に気軽にちよつとしたお手伝いをしてくれる組織があれば、もっと住みやすい地域になると思います。



### 地域で取り組む介護予防活動

☆平成31年2月22日に、健康福祉部会主催で、直方市へ「介護予防活動」の研修会に行きました。参加者は19名でした。

最初に直方市の現状把握として、

#### 直方市の人口動態の割合推移

現在、市の人口は、56,725人です。また、人口動態割合は、

- ・ 老人人口 32%
- ・ 65歳以上 32%
- ・ 生産年齢人口 (15～64歳) 55%
- ・ 年少人口 13%
- ・ (0～14歳) 13%

となります。



直方中央公民館玄関前にての集合写真です

今後、高齢人口が増え、生産年齢人口と年少人口が減っていきます。働く人が人手不足になっていきます。また、介護のお世話を必要とする老年人口が増えていきます。

#### 介護保険料(基準額)月額推移

平成12年4月から始まった介護保険制度ですが、平成15年月額3,750円であった介護保険料は、平成30年には6,333円になっていきます。15年間で2,577円の増加です。

2025年には、7,070円になると推定され、今後、保険料は更に増加していきます。

直方市の介護給付費も平成15年に34億円だったのが、2020年には、75億円になると推定されています。

ると推定されています。22年間で2.2倍になります。

#### 全国との健康寿命の比較(2013年分)

そこで、高齢になり、介護を必要とする年数について全国と比較すると、

【男性】

- \* 全国 (90年)
- 平均寿命 80.2歳
- 健康寿命 71.2歳

\* 直方市 (13.9年)

- 平均寿命 78.8歳
- 健康寿命 64.9歳

【女性】

- \* 全国 (12.4年)
- 平均寿命 86.0歳
- 健康寿命 74.2歳

\* 直方市 (19.8年)

- 平均寿命 86.6歳
- 健康寿命 69.8歳

となり、男女ともに全国平均よりも支援・介護を受ける期間が長いことがわかります。

#### 平成28年度直方市介護認定者有病状況

多い順に、

- ① 筋・骨格疾患
- ② 精神疾患

(認知症を含む)

③ 脳疾患  
となり、心臓病、糖尿病等の生活習慣病が続いています。

そこで、市では、予防可能な生活習慣病予防と閉じこもり予防に取り組みながら、健康寿命の延伸を図っています。

#### 要支援認定者のデイサービスやヘルパー利用の主な目的は?

- 訪問介護(ヘルパー)・掃除が多い。
- 通所介護(デイサービス)
- 運動と交流とレクリエーションが多い。
- 利用者の生活環境・独居が多い。

#### 地域包括ケアシステムの構築について

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目的に、「重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域

で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制」(地域包括ケアシステム)を市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基つき、地域の特性に依りて作り上げていくことが必要です。

#### おがた元気ポイント事業について

のおがた元気ポイント事業は、高齢者の健康づくりや介護予防を推進するため、市や地域で行っている活動に参加したり、健診を受けたりすることでポイントを集める事業です。

20ポイントを集めて2,000円分の直方商品券と交換できます。交換は年度内一回で、ポイントカードの有効期限はありません。

平成30年3月での参加登録者は、2,613名です。

#### 介護保険制度を理解しましょう

介護保険法の第一条(目的)

能力に依り自立した日常生活を営む事が出来るための給付であること。

第4条(国民の努力及び義務)

国民には、自ら健康の保持増進に努力する義務があること。

#### 「いきいき百歳体操」のススメ

現在、直方市が介護予防の推進として、「いきいき百歳体操」の普及を目指しています。週に2回の体操で、基本的に椅子に座ってします。杖使用の96歳虚弱女性が週2回3ヶ月間、この体操を実行したら、しっかり歩けるようになったっていました。体操のDVDも有り。



一年間を振り返って



会長 利春氏 稲留

♥まず、コミュニティ活動が昨年で10周年となり、その間諸先輩達の御尽力により、活動が続いたことに感謝を致します。

現在の活動を見ると、曲がり角にきているかと推察します。

役員会等で意見を聞きますと、自治会に入らない住民（特に集合住宅）の方が多し。又、役員の成り手がなく、自治区役員が固定化されて、同じ区長が何年も続けなければ組織が回らないとの意見も出ています。

しかし、児童・生徒の見守り活動と安全の確保、高齢者の増加に伴う孤独死の

心配や見守り活動の実施、地域防災の確保等問題は多々あり、待ったなしです。今後の組織運営をどうするか、各区長達とも相談し、知恵を出し合いたいと思います。又、役場の方も役員の待遇を考

えて頂き、魅力ある組織を創っていきたいと思います。

各部会では、忙しい中で各事業を推し進めて頂き、唯々感謝しています。

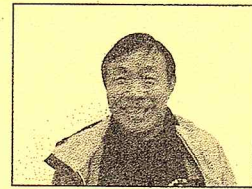
一番心に残っているのは、安全安心部会実施の朝倉市松末地域視察研修です。

災害地を実際に見て、説明を聞くと涙の出る思いをしたのは、私だけでは無いと思

います。幸い、岡垣町であのような大災害が今まで発生しなかったのは、ただの偶然で、今後はただの偶々で、今後はと思うと肌寒い思いがあります。

最後に地域関係者

役員、運営委員、役場の方に感謝申し上げます。今後もコミュニティ活動に一層の御理解と御協力を宜しくお願い致します。



安全安心部会長 男座 高任氏

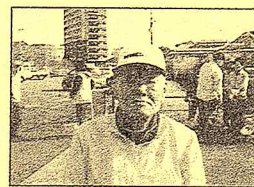
♥年間通しての青パトで、児童の安全と挨拶運動と海老津駅周辺の防犯パトロールを実施しました。その為、犯罪件数が減少しました。

5月には、海老津小学校で交通安全教室を協賛開催し、交通安全に対する意識高揚を図りました。

平成29年7月の九州北部豪雨災害に見舞われた朝倉市松末地区を現地視察しました。

道は土砂で埋まり、数十メートル下の事。当時の面影は無

く、今は閑散として、人も住めない状態でした。この研修で学んだ事を今後の防災に活かすように、努力したいと思ひます。



環境部会長 谷口 静夫氏

♥7月に岡垣リレーセンターと中間リサーチクルプラザの施設見学をしました。

ペットの飼い主に「犬のうんち袋」を配付しましたが、1個じゃなく5個欲しいとか、手提げ式が良いとか、様々な御意見がありました。

8月には、海老津校区内の通学路一斉清掃を行いました。親とお子さんが多数参加しました。

3月には、矢矧川清掃後に、「鮭の稚魚約2000匹」の放流」をしました。子

ども達も大喜びで放流して頂きました。3、4年後に成魚となって戻って来ることを祈っています。



健康福祉部会長 三隈 一治氏

♥どこの自治区も役員の成り手がいない中、個人の趣味や生きがい作りの為に多忙な毎日を送っている事と思ひます。私が部会長になったのは、一昨年の「阿弥陀くじ」でした。その時以来、2年間「健康福祉部会長」をさせて頂きました。

サロン情報交換会、出前講座と参加者によるペタンクゲーム大会、視察研修に楽しく取り組んでまいりました。

考えたら、これらは、すべて自己の認知症予防に繋がって

いると思ひます。

取組に参加して頂いた各自治区の区長さんをはじめ、公民館長さん、民生委員さん、役員の皆さんに感謝致します。本当にありがとうございました。



広報部会長 松下 恵一氏

♥本年度は、例年開催されていた「5校区コミュニティのシンポジウム」が開かれなかった為、視察研修会の報告が主な記事になりました。

地域で助け合っ

暮らしていくことが当たり前の時代になってきたようです。本年度も、皆様の御協力で、第43号まで発行できましたこと、お礼を申し上げます。ご愛読ありがとうございました。